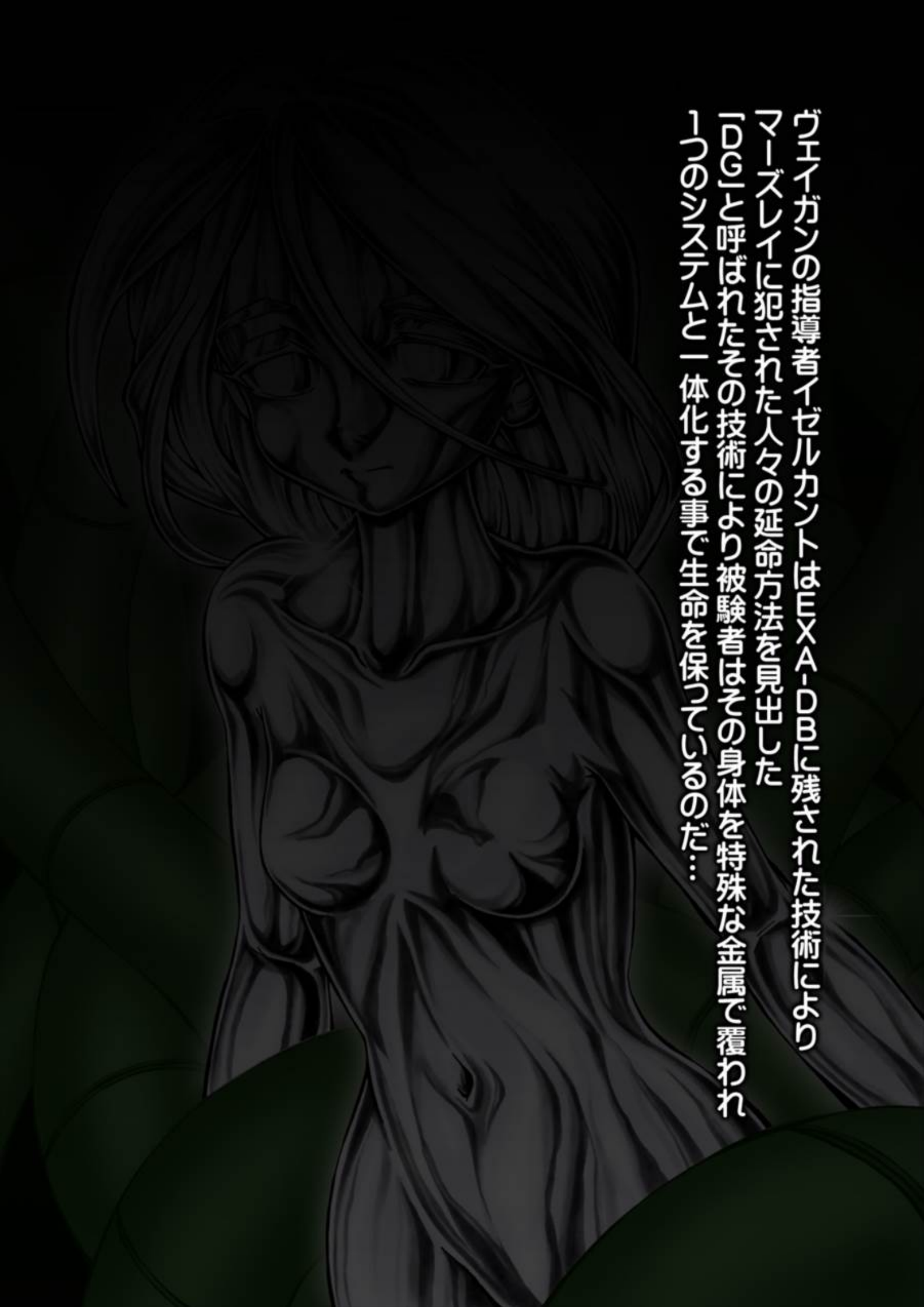




ア二固!Vol1



グエイガンの指導者イゼルカントはEXA-DBに残された技術により  
マーズレイに犯された人々の延命方法を見出した  
「DG」と呼ばれたその技術により被験者はその身体を特殊な金属で覆われ  
一つのシステムと一体化する事で生命を保っているのだ…

「イゼルカントさん……これでルウは  
ルウは本当に助かるのですか？」

この少女が……そして他の多くの  
マーズレイに身体を犯された同胞達が助かるか  
それは私にも分からない」

「そんな……」

「だがこれで彼らがマーズレイのために死ぬ事はないのだ  
地球に……エデンにさえ辿り着き  
そしてEXA-ADBの全ても我らヴェイガンが手に入れば  
かならず彼らを救ってみせると約束しようキオ！  
だから我らの仲間となるのだ」



『ボクは…どうすればいいの？ ツイちゃん…父さん  
ボクには もうこの人が間違ってるようにとは思えないよ』



『それにしても 綺麗だ  
なんて綺麗なんだ…ルウ  
ボクは ボクは君のためなら…』



二人はまだ知らなかった  
それがかつて一つの時代に地球を恐怖に落とし入れた  
禁断の技術である事を……

「わたし  
気になります」



「折木さん  
気になりますー！」

「わ…たし  
木…」



[……]

「な…なんだ!? この体は…どうなってる!?」

「どうやら成功したようだね」

「…その声 テメエ一体なにモンだ!」

「面白いでしょっつ? いまあなたは  
通常世界の姿でこの無制限中立フリールドに来ているんです」





「なんだとオ」

「簡単に言うと我々が勝手に貴方をアンリミテッド・バースト状態にしこのフィールドに呼び込んだんですよ」

「ただし今の貴方の体はデュエルアバターではない」

「そんな事はキサマに説明されなくても分かっただよー！」

「しかも人がバースルームに入ろうとした所を狙うとは…この変態野郎が！」

「ははは イヤだなあ  
単に多くの人間が無防備になる瞬間だから狙ったまでです」

「ゲツ…そうかよー！」

「貴方は現在このフィールド上にバーストリンカーとしてではなくただの背景パーツ…オブジェとして存在しています  
つまり初期加速空間のクリスタルの姿でここに居るのですよ  
上月由仁子…いや 赤の王スカーレットレイン！」

「!!!」



「そんなに驚く事ですか？ 貴方達のように迂闊にもリアルで頻繁に他レギオン同士で接触してるようなマヌケさんは簡単にリアル割れしたっておかしくないでしょっ？」

「達…だと」



「そう お友達の黒の王ブラックロータスは貴方よりも先に我らの手に落ちていきます 視界(?)に入る位置に『持ってきましよう』」

「オイ！無事か？」

「イツ 返事くらいしやがれ!!」

「そろそろ…返事は無理になった頃じゃないかな  
フッフ」

「どういう意味だ！」

「言ったでしょう いま貴方達はこの世界に  
オブジェとしてやって来ている

今はまだ意識が残っているかもしれないませんが  
じきに本当のオブジェになるんです 身も心も」

「なんだ…と」

「ブラック・ロータスはこの姿でかなり長い時間

こっちに居ましたからね もう完全にクリスタル像と化しています」

「あ 別に現実の身体の方は死んだりはしていませんが  
まあ…死ぬまで植物人間状態でしょうね

心は『こっち側』でクリスタルになっっているんだから」



「ふざけんな！  
ブツ殺されたいのかゲス野郎ツ!!」

「首の部分を見れば分かると思いますが：  
貴方達は自分のニユーロリンカーとの接続を絶たれています  
そう…主導権はすでに我々が握っているんです  
よって自分の意思でバーストアウトも出来ません」



「な!!? そんな…バカな…」

「貴方もその内この世界で完全にクリスタル化するでしょう  
まず視界が消え会話が出来なくなり最後に…意識が消える…」





そこには二体の美しい結晶体が立っていた  
蒼く澄んだ水晶のようなそれは  
それぞれ「黒の王」「赤の王」と呼ばれていた存在だったが  
もはや今の姿を見てツレを「黒」や「赤」と形容する者は居ないだろう

現実世界のツレは植物人間状態であり  
その二生をベツトで過ごす事となるだろう  
なぜならその精神はこの世界で結晶と同化してしまったのだ

二体の結晶像はこの後もこの世界に飾られ続けるのだろう  
本体が死亡すればこちらの像も消えるのかもしれない  
しかし現実世界よりも時間の流れの早いこの世界の時間で  
二人は何千…いや何万年この姿を晒すのか…

それはまだ誰にも知らない



SAOの世界：浮遊城アインクラッドの攻略はついには「90階層」まで進行していた  
だが90階層を突破直後に世界は大きく変化していたのだ  
やはり茅場晶彦は簡単に我々をこの世界から解放させる気はないのだろう

具体的には現時点でPCには解除不可能な状態異常：石化を使用するエネミーが現れたのだ  
当初は都市伝説のように囁かれたウワサでしかなかったが具体的な犠牲者が出た事で  
正式に存在が確認されたのだがその最初の犠牲者は意外かつ衝撃的な物であった



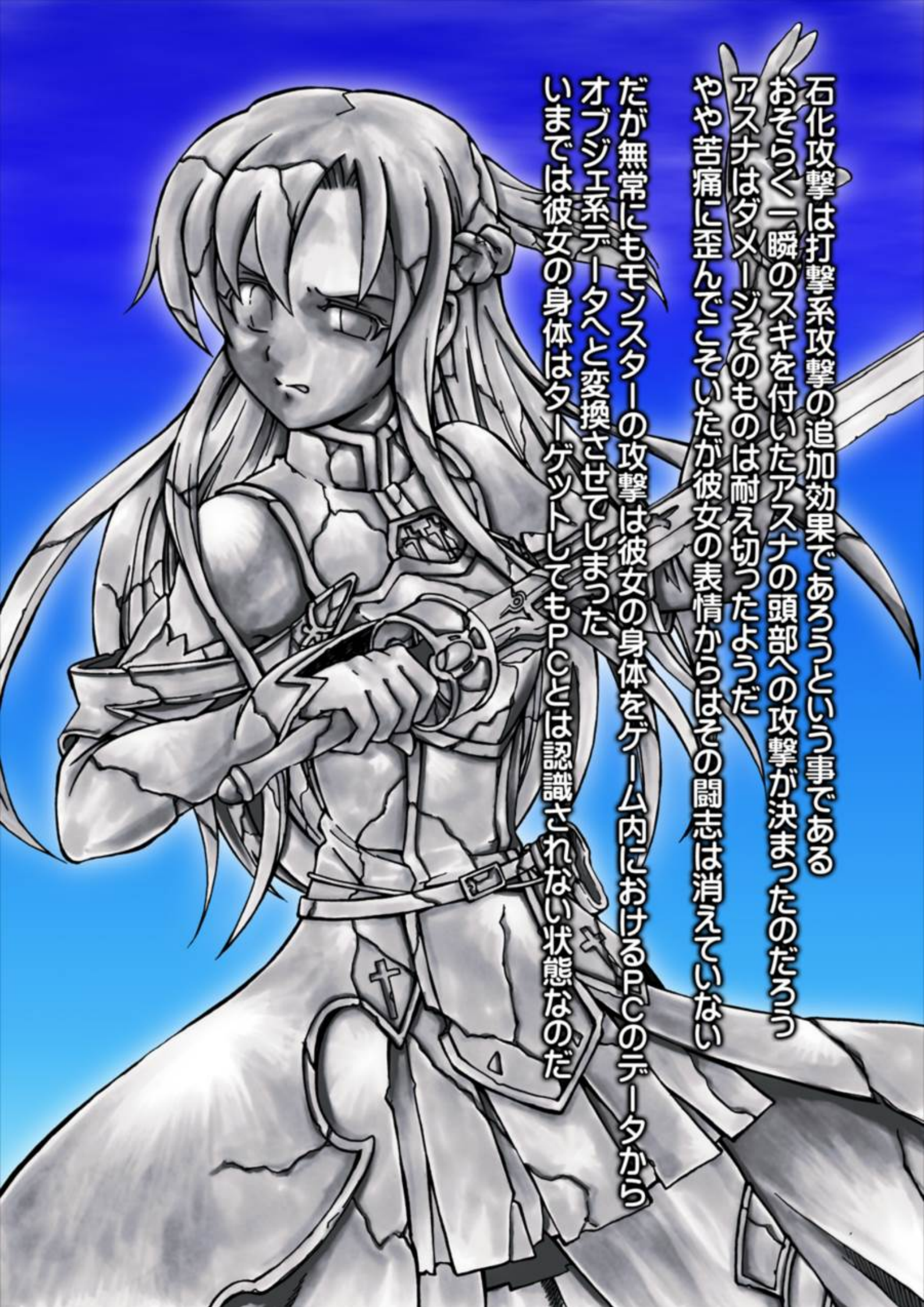


その犠牲者は…

アインクラフト内で最も有名な女性PCのひとり…その美しさと強さを兼ね備えたハズの  
《閃光》ことアスナその人だったのだ


彼女の身体は衣服を含め全て完全に石化していたが  
その姿から幾つかの事が推測された

「口を庇っていないためガス系の石化攻撃ではない」  
「本人が石化すると装備品・所持品全てが石化する」  
そしてもう一点



石化攻撃は打撃系攻撃の追加効果であらうという事である  
おそろく一瞬のスキを付いたアスナの頭部への攻撃が決まったのだらう  
アスナはダメージそのものは耐え切ったようだ  
やや苦痛に歪んでこそいたが彼女の表情からはその闘志は消えていない

だが無常にもモンスターの攻撃は彼女の身体をゲーム内におけるPCのデータから  
オブジェ系データへと変換させてしまった  
いまでは彼女の身体はターゲットしてもPCとは認識されない状態なのだ



石化能力を持つエネミーの出現…その危険の警告からアスナはその姿を  
グランザムの中央広場に飾られる事となった  
普段の彼女を知る者はあの美しかったアスナを…  
アスナほどの剣士すらこんな姿で石に変えるモンスター  
そんな怪物が実際にこの世界には存在したのだ…

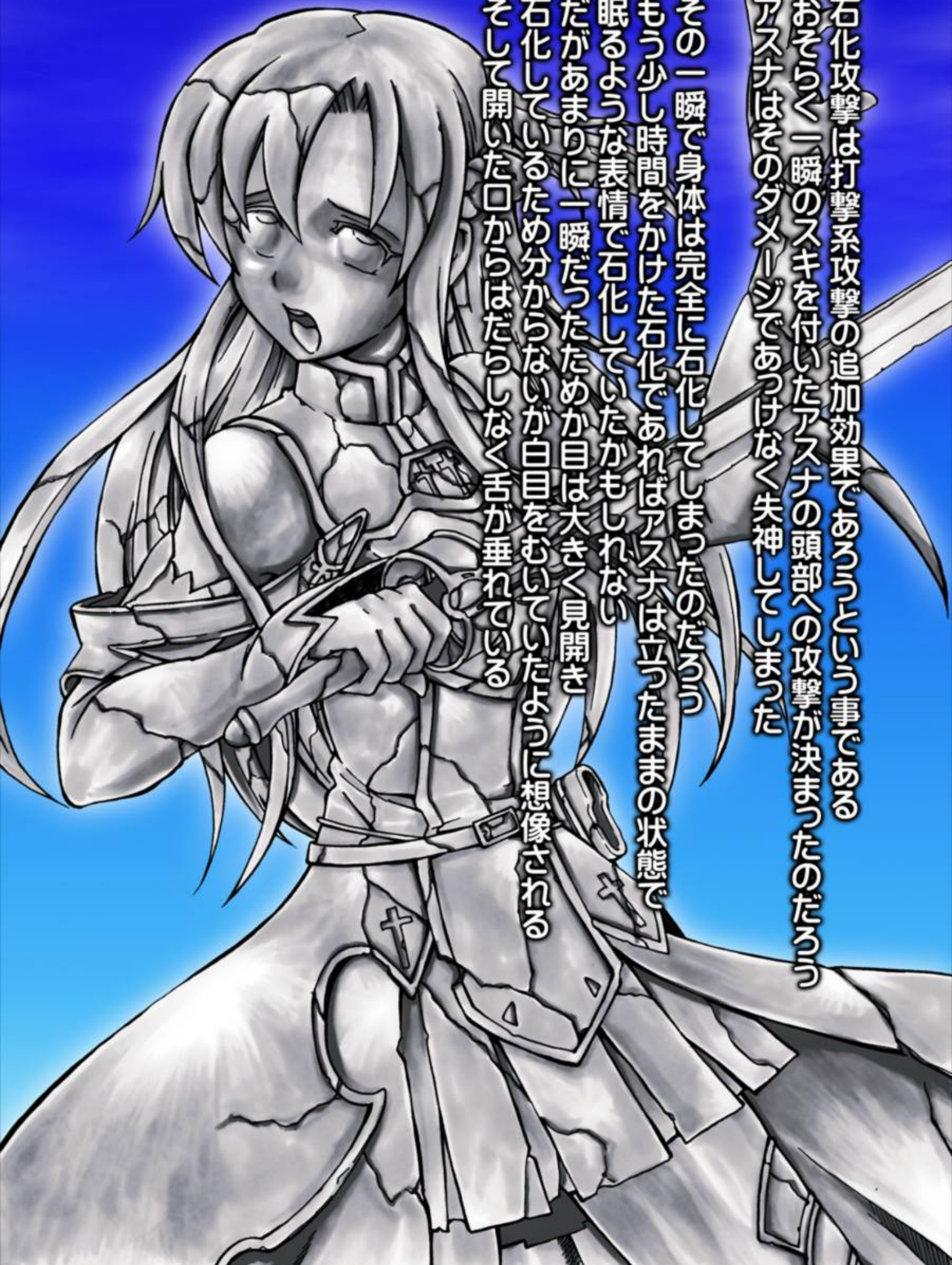


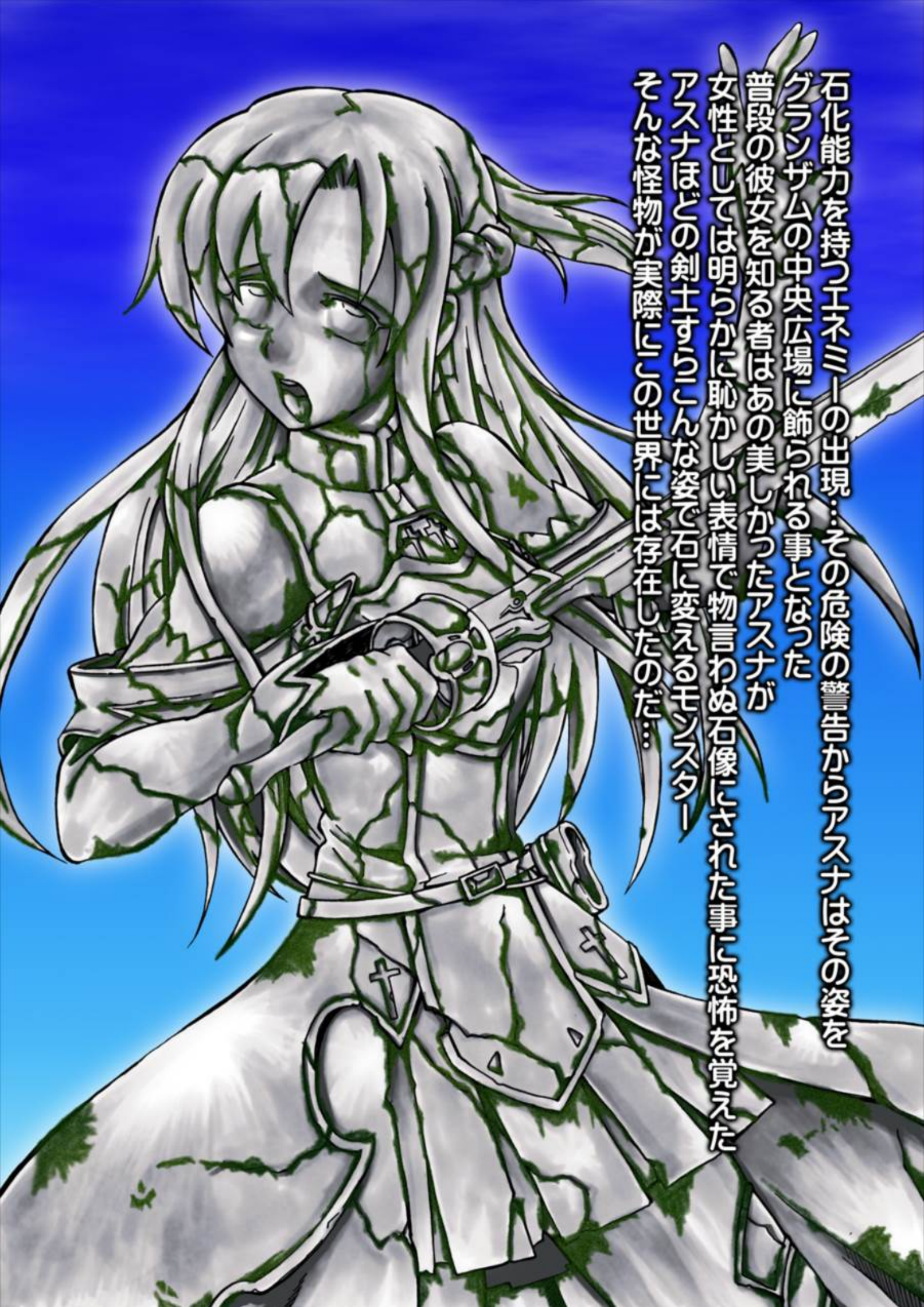
ちなみに黒鉄宮の金属碑に刻まれたアスナの名前は死亡扱いにはなっていない  
彼女はこんな姿に変わり果てたがまだ死亡してはいないのだ  
それだけが唯一の救いと言えたであろう  
ただし もしも全てのPCが死んでしまった場合  
彼女は永遠にこの姿を晒しアインクラッドに立ち尽くす事となるのだ…

なお彼女とパーティを組んでいたと思われるキリトは現在行方不明である


石化攻撃は打撃系攻撃の追加効果であらうという事である  
おそろしく一瞬のスキを付いたアスナの頭部への攻撃が決まったのだらう  
アスナはそのダメージであっけなく失神してしまった

その一瞬で身体は完全に石化してしまっただらう  
もう少し時間をかけた石化であればアスナは立ったままの状態で  
眠るような表情で石化していたかもしれない  
だがあまりに一瞬だったためか目は大きく見開き  
石化しているため分からないが白目をむいていたように想像される  
そして開いた口からはだらしなく舌が垂れている





石化能力を持つエネミーの出現…その危険の警告からアスナはその姿を  
グランザムの中央広場に飾られる事となった  
普段の彼女を知る者はあの美しかったアスナが  
女性としては明らかに恥かしい表情で物言わぬ石像にされた事に恐怖を覚えた  
アスナほどの剣士すらこんな姿で石に変えるモンスター  
そんな怪物が実際にこの世界には存在したのだ…



ちなみに黒鉄宮の金属碑に刻まれたアスナの名前は死亡扱いにはなっていない  
彼女はこんな姿に変わり果てたがまだ死亡してはいないのだ  
それだけが唯一の救いと言えたであろう

ただし もしも全てのPCが死んでしまった場合

彼女は永遠にこの姿を晒しアインクラッドに立ち尽くす事となるのだ…

なお彼女とパーティを組んでいたと思われるキリトは現在行方不明である



その犠牲者は…

アインクワッド内で最も有名な女性P.Cのひとり…

《ビーストテイマー》シリカだった

彼女の身体は衣服を含め全て完全に石化していたが

その姿から幾つかの事が推測された

「手足を拘束された形跡があるため触手を持ったエネミーである」

「その状態でかなり長い時間抵抗した形跡があるため一瞬での石化ではない」



シリカはかなり不自然なポーズで石化していた

まず左足は何者かに持ち上げられたように高く上げられていた

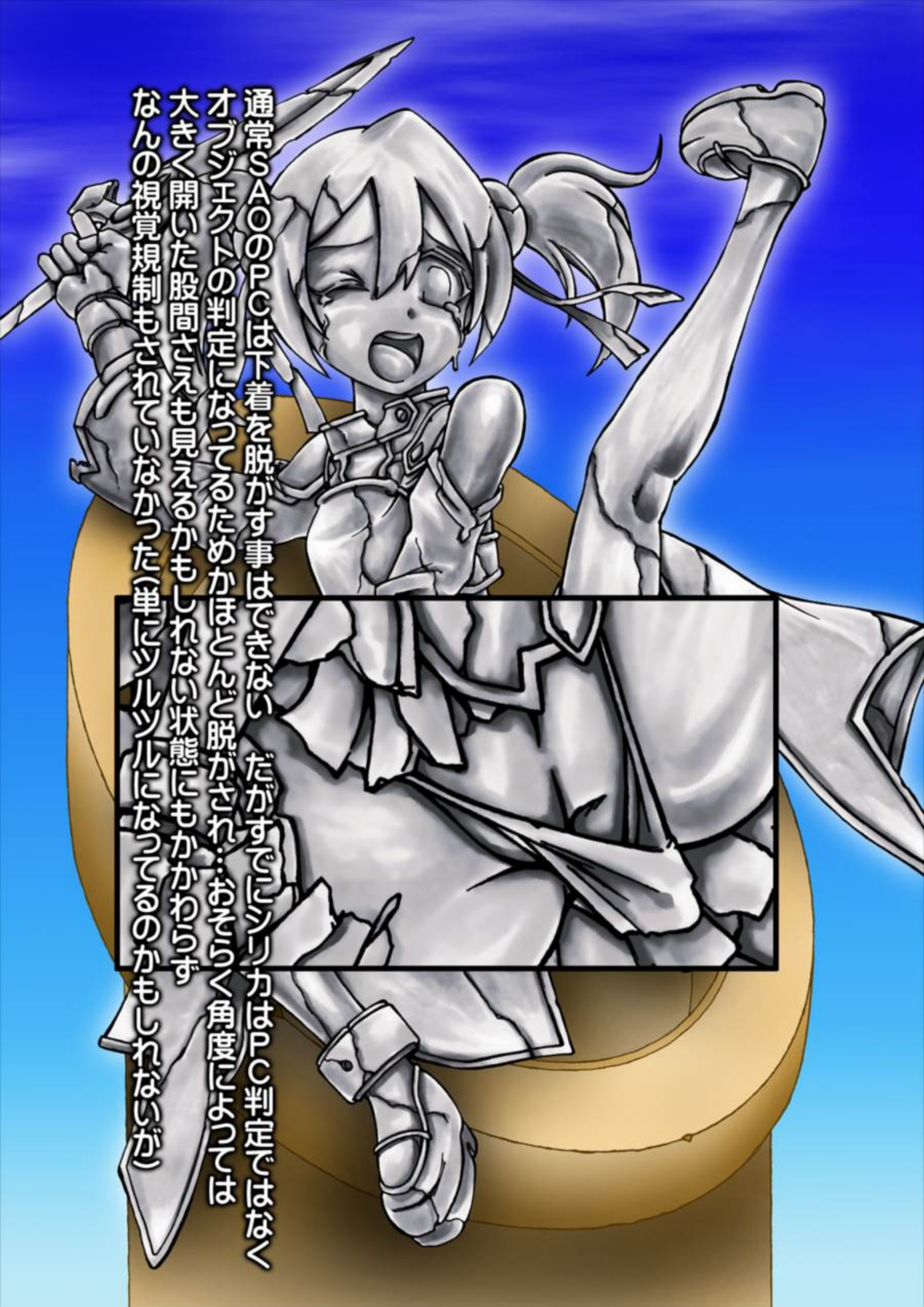
さらに彼女の下着は何かにつり張られるように逃がされた形で石化している  
以上の事からこのエネミーは複数の触手を持ったモンスターと想像された

さらに羞恥心から左手でスカートを必死に庇ったように見えるのだが  
結局スカートは(庇ったせいで逆に)砕けてしまっている

この点から石化は一瞬ではなく徐々に変化していったのだと考えられた

石化能力を持つエネミーの出現…その危険の警告からシリカはその姿を  
グランザムの中央広場に飾られる事となった

当初あまりに羞恥的な姿から批判が出たが「逆に危険を伝える効果がある」  
との判断から結局そのまま飾られた



通常SAOのPCは下着を脱がす事はできない。だがすでにシリカはPC判定ではなく  
オブジェクトの判定になってるためかほとんど脱がされ…おそろしく角度によつては  
大きく開いた股間さえも見えるかもしれない状態にもかかわらず  
なんの視覚規制もされていなかった(単にツルツルになってるのかもしれないが)



ちなみに黒鉄宮の金属碑に刻まれたシリカの名前は死亡扱いにはなっていない  
彼女はこんな姿に変わり果てたがまだ死亡してはいないので  
それだけが唯一の救いと言えたであろう 最も現在も彼女の意識や  
聴覚などが生きていた場合はその恥かしさに耐えられないかもしれない



そして 全てのPCが死んでしまった場合  
彼女は永遠にこの姿を晒しアインクニラッドに立ち尽くす事となるのだ…  
なお彼女の使い魔《ピナ》は現在行方不明である

「サング…レイドさん これは…  
一体…私を…どうする気です」

「まだ分かりませんか？」

「ワタンは貴女の動きを封じマシタ」

「ソノ上で一体ワタンがどうしたいのか…」

「……」

「ワタンいまから貴女の命呪を貰いマス」

「そしてセイバーもワタンのサーヴァントになるのデースー！」





「=ジジジジジジジジジジ  
ジジ ジジジジジジジジジジ」

「動きを封じられたまま抵抗してもムダです  
もう諦めなさいーい」

「な…なんですってー!」

「デスが…」

「…?」

「たとえワタシがマスターとなっても  
セイバーはあの性格だ  
貴女が生きている限り  
ワタシには心からの忠誠は無いですわね」  
「ま…まさか…」



フイエエー大丈夫  
貴女を殺したりはしませんよ  
そんな事をしてやったのがワタシとバレたら  
それこそ厄介デス

「……」

「かといって……今後セイバーが  
貴女に関してワタシに逆らうたびに  
令呪で従わせるのも上手くありません」





ソコでワタシは考えました  
こうすればいいのデースー!

「あ…あああ  
か…身体が  
石に!?!」

ビィ  
キ  
ビィ  
キ  
キ



「令呪は貴女が完全に石になってからゆづり  
いただきます」

「いやああ！ 止めて  
お願い……こんな……」

「そして石像になった貴女は  
死んではいけないが生きてもいない  
人質となる訳デースー！」



「そんなー！」

「名案でしょうー！」

ソノ上元に戻せるのがワタシだけとなれば  
ひよつとしたら令呪の権限など無くても

セイバーはワタシに従うかもしれませんよ」

「あ……う……！」

「おや、ソノロンゴやぶるのせ

困難になってマスクか？」





「た…す セイ…ば…」

「完全に石化したようデスネ  
でわーユツクリと令呪をいただきましょー」

「……」



「これでセイバーは  
そしてある意味アナタも」

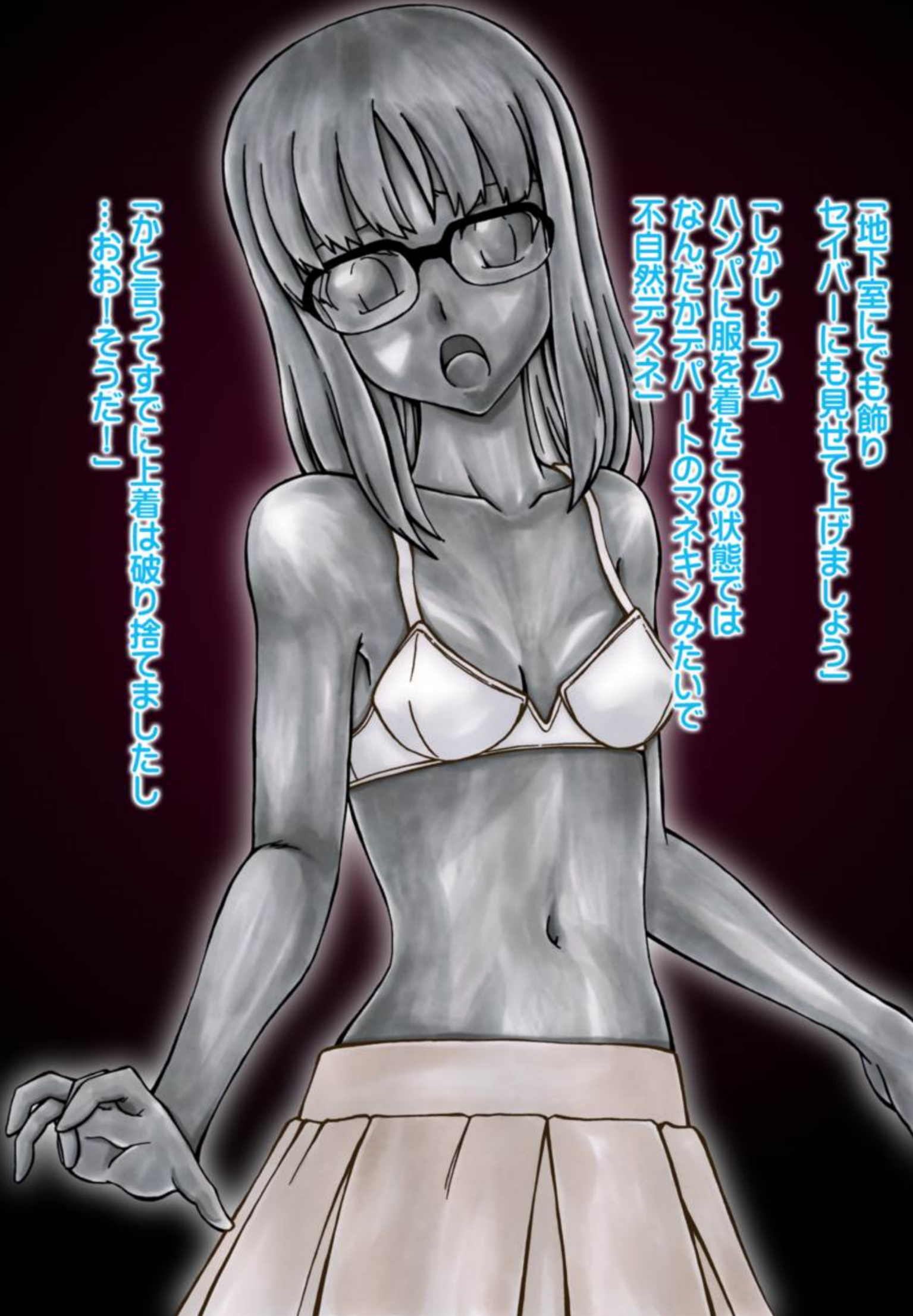


「ウタムのものデースー」

「地下室にでも飾り  
セイバーにも見せて上げましょう」

「しかし…フム  
ハンパに服を着たこの状態では  
なんだかデパートのマネキンみたいで  
不自然デスネ」

「かと言ってすでに上着は破り捨てましたし  
…おおーそうだー!」



「これでいい　おおおー」

「これでより芸術品らしくなったじゃないデスかあ」

「無事に聖杯戦争が終わったら」

「どこかの美術館に寄贈したいくらいですよ」

「眼鏡はヘタに外すと身体を破損しかねませんね  
そうなると人質の意味も無くなる  
まあ　このままでいいデス……」








「セイバーのマスター権  
たしかにいただきました  
『これからも』その姿でご協力お願いしますよ  
お嬢さん……」

バタン



そして綾香だった石像は地下室に残された  
その後セイバーはこの変わり果てた綾香と再会するのだろうか  
そしてセイバーは聖杯戦争の勝者となるのか  
サンクレイド・ファーンの野望は成るのか

それは誰にも分からない  
ただ少なくともその結果がでるまでは

そこに少女の裸像は立ち尽くすだけなのだ

ただ一体で 淋しく…